

Inv: 1<sup>1/1</sup> ẽ - ẽ  
out Pocket: 4628

Patent Number: JP8175395  
Publication date: 1996-07-09  
Inventor(s): ONISHI ICHIRO; KASAI KENZO  
Applicant(s): APRICA KASSAI INC  
Requested Patent: JP8175395  
Application Number: JP19940326145 19941227  
Priority Number(s):  
IPC Classification: B62B9/12  
EC Classification:  
Equivalents: JP3385120B2

**PURPOSE:** To enable a stroller seat to keep the center of its backrest portion from collapsing even at the application of the greater weight of a baby with the backrest portion fully folded down, the stroller seat having a backrest core and a head guard core used to keep the shapes of a backrest portion and a head guard portion and divided respectively into a plurality of backrest portions and a plurality of head guard portions in order to permit the folding action of the stroller in its cross direction.

**CONSTITUTION:** A plurality of backrest plates 15 to 17 are hinged to one another and a plurality of head guard plates 18 to 20 are hinged to one another, both by means of hinge tapes from their backs, and the backrest plates and the head guard plates are hinged to each other by hinge tapes 27 to 29 on their fronts. With a backrest core 9 fully folded down, a head guard core 10 is held raised from the upper end of the backrest core 9, so that the deflection strength of the backrest core 9 is increased by the head guard core 10.

USPS EXPRESS MAIL  
EV 338 198 867 US  
JANUARY 6 2004

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-175395

(43) 公開日 平成8年(1996)7月9日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

B 6 2 B 9/12

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

A

審査請求 未請求 請求項の数2 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願平6-326145

(22) 出願日 平成6年(1994)12月27日

(71) 出願人 390006231

アップリカ▲葛▼西株式会社

大阪府大阪市中央区島之内1丁目13-13

(72) 発明者 大西 伊知朗

大阪市中央区島之内1丁目13番13号 アッ

プリカ▲葛▼西株式会社内

(72) 発明者 ▲葛▼西 健造

大阪市中央区東心斎橋1丁目14番9号

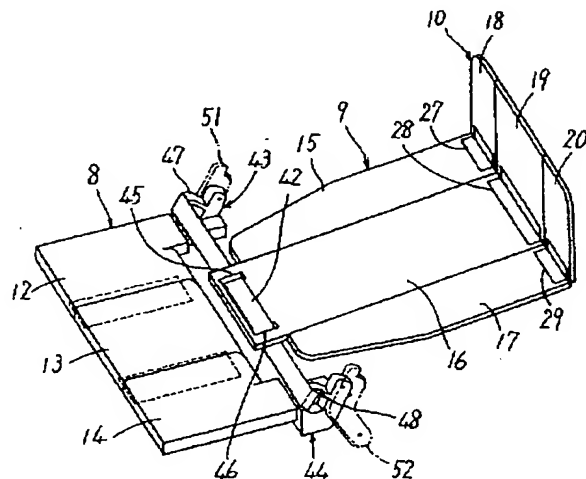
(74) 代理人 弁理士 深見 久郎 (外3名)

(54) 【発明の名称】 乳母車の座席

(57) 【要約】

【目的】 背もたれ部およびヘッドガード部の各々の形状を維持するための背もたれ芯材およびヘッドガード芯材が、乳母車の幅方向での折りたたみ動作を許容するため、複数の背もたれ板および複数のヘッドガード板に分割された、乳母車の座席において、背もたれ部が最も倒されたとき、乳幼児のより多くの体重が加わって背もたれ部の中央部が落ち込むことを抑制できるようにする。

【構成】 複数の背もたれ板15~17相互および複数のヘッドガード板18~20相互を、それぞれ、背面側においてヒンジテープによりヒンジ接続するとともに、各背もたれ板と各ヘッドガード板とを、それぞれ、正面側においてヒンジテープ27~29によりヒンジ接続する。背もたれ芯材9が最も倒れたとき、ヘッドガード芯材10を背もたれ芯材9の上方端から立ち上がる状態とし、ヘッドガード芯材10により背もたれ芯材9の撓み強度を増すようにする。



## 【特許請求の範囲】

## 【請求項1】 座部と、

前記座部の後方端から立ち上がりかつ傾斜角度変更可能に設けられた背もたれ部と、

前記背もたれ部の上方端に回動可能に連結されたヘッドガード部とを備え、

前記背もたれ部が比較的立ち上がった状態では、前記背もたれ部と前記ヘッドガード部とは実質的に一平面上に並ぶ状態とされ、他方、前記背もたれ部が最も倒れた状態では、前記ヘッドガード部は前記背もたれ部の上方端から立ち上がった状態とされ、

前記背もたれ部および前記ヘッドガード部は、それぞれ、剛性の比較的高い材料からなる板状の背もたれ芯材およびヘッドガード芯材によって各々の形状が維持され、

当該乳母車の幅方向での折りたたみ動作を許容するため、前記背もたれ芯材および前記ヘッドガード芯材は、それぞれ、当該乳母車の側面と平行に延びる少なくとも1つの分割線によって分割された複数の背もたれ板および複数のヘッドガード板を備える、乳母車の座席において、

前記複数の背もたれ板相互および前記複数のヘッドガード板相互は、それぞれ、背面側においてヒンジ接続され、

各前記背もたれ板と各前記ヘッドガード板とは、それぞれ、正面側においてヒンジ接続されることを特徴とする、乳母車の座席。

【請求項2】 前記複数の背もたれ板および前記複数のヘッドガード板は、実質的に一平面上に並ぶ状態となったとき、隣り合うもの相互で突き合わされる端面を有する、請求項1に記載の乳母車の座席。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 この発明は、乳母車の座席に関するもので、特に、その背もたれ部が最も倒れた状態ではベッド状となる座席に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】 乳母車の座席としては、座部と背もたれ部とを備える椅子型のものが普及している。このような座席において、その背もたれ部が傾斜角度変更可能に設けられることが多い。また、このような背もたれ部の傾斜角度変更範囲に関しては、座席をベッド状とすることができる程度に背もたれ部が倒されるようにすることが好ましい。

【0003】 乳母車に関する安全基準では、ベッド状となった座席に対しては、ヘッドガード部を取付けることが義務付けられている。ヘッドガード部は、乳母車に乗せられた乳幼児の頭の上面对向して配置されるもので、乳幼児がベッド状の座席からその頭をはみ出したり、さらには頭から滑り落ちたりすることを防止するも

のである。

【0004】 上述のヘッドガード部は、座席がベッド状となったときにのみ必要とされる。したがって、乳幼児の座り心地の観点からは、背もたれ部が比較的立ち上がった状態にあるときにまでヘッドガード部が乳幼児の頭上に存在するのは好ましくない。したがって、背もたれ部が比較的立ち上がった状態では、ヘッドガード部が背もたれ部と実質的に一平面上に並び、背もたれ部がベッド状にまで倒れた状態において初めてヘッドガード部が乳幼児の頭の上面对向するように位置されることが望ましい。

【0005】 上述の要望を満たし得る乳母車の座席が、たとえば、本件出願人による特公昭58-33149号公報に記載されている。

【0006】 また、上述した座席に備える座部、背もたれ部およびヘッドガード部は、それぞれ、剛性の比較的高い材料からなる板状の座芯材、背もたれ芯材およびヘッドガード芯材によって各々の形状が維持される。そして、これら座芯材、背もたれ芯材およびヘッドガード芯材は、可撓性のカバーシートによって覆われる。

【0007】 前述した公報に記載された乳母車では、その幅方向での折りたたみ動作が行なわれないが、幅方向での折りたたみ動作が可能な乳母車にあっては、このような幅方向での折りたたみ動作を許容するため、上述した座芯材、背もたれ芯材およびヘッドガード芯材は、それぞれ、乳母車の側面と平行に延びる少なくとも1つの分割線によって分割された複数の座板、背もたれ板およびヘッドガード板を備える構成とされる。

## 【0008】

【発明が解決しようとする課題】 上述した座板、背もたれ芯材およびヘッドガード芯材のそれぞれに与えられる分割構造は、乳母車の幅方向での折りたたみ動作を許容するため必要なものであるが、これがかえって次のような不都合を招く。すなわち、乳母車の開いた状態において、座席に乳幼児が乗せられたとき、乳幼児の体重によって、座芯材、背もたれ芯材およびヘッドガード芯材が分割線に沿って折り曲げられ、座席がその幅方向中央部において落ち込む傾向がある。

【0009】 特に、背もたれ部に注目すると、それが最も倒された状態では、比較的立ち上がった状態に比べて、乳幼児のより多くの体重が背もたれ部に加わることになる。その結果、上述したような落ち込みは、特に、背もたれ部が最も倒された状態においてより顕著に生じる。

【0010】 それゆえに、この発明の目的は、上述したような背もたれ部における落ち込みの問題を低減できる、乳母車の座席を提供しようとするところである。

## 【0011】

【課題を解決するための手段】 この発明は、座部と、座部の後方端から立ち上がりかつ傾斜角度変更可能に設け

られた背もたれ部と、背もたれ部の上方端に回動可能に連結されたヘッドガード部とを備え、背もたれ部が比較的立ち上がった状態では、背もたれ部とヘッドガード部とは実質的に一平面上に並ぶ状態とされ、他方、背もたれ部が最も倒れた状態では、ヘッドガード部は背もたれ部の上方端から立ち上がった状態とされ、背もたれ部およびヘッドガード部は、それぞれ、剛性の比較的高い材料からなる板状の背もたれ芯材およびヘッドガード芯材によって各々の形状が維持され、当該乳母車の幅方向での折りたたみ動作を許容するため、背もたれ芯材およびヘッドガード芯材は、それぞれ、当該乳母車の側面と平行に延びる少なくとも1つの分割線によって分割された複数の背もたれ板および複数のヘッドガード板を備える、乳母車の座席に向けられるものであって、上述した技術的課題を解決するため、次のような構成を備えることを特徴としている。

【0012】すなわち、複数の背もたれ板相互および複数のヘッドガード板相互は、それぞれ、背面側においてヒンジ接続される。また、各背もたれ板と各ヘッドガード板とは、それぞれ、正面側においてヒンジ接続される。

【0013】

【作用】この発明では、複数の背もたれ板および複数のヘッドガード板は、それぞれ、背もたれ部およびヘッドガード部において単に並べられるのではなく、相互にヒンジ接続される。その結果、背もたれ板の各々およびヘッドガード板の各々は、隣り合う背もたれ板またはヘッドガード板に対して回動するとき、隣り合うもの相互間で動きを規制し合うことになる。そのため、背もたれ部が最も倒され、ヘッドガード部が背もたれ部の上方端から立ち上がる状態とされたとき、ヘッドガード芯材は、背もたれ芯材の撓み強度を増すように作用する。

【0014】

【発明の効果】したがって、この発明によれば、背もたれ部が最も倒されたとき、乳幼児の多くの体重が背もたれ部に加わっても、背もたれ部の落ち込みが抑制され、乳幼児に対して好ましい座り心地を与えることができるとともに、乳幼児の脊椎が不自然に変形されることを防止できる。

【0015】また、この発明では、複数の背もたれ板相互および複数のヘッドガード板相互がそれぞれヒンジ接続される側は、背面側に選ばれているので、背もたれ部およびヘッドガード部の幅方向中央部を前方へ突出させる折り曲げは容易に進行するが、逆の方向への折り曲げに対しては、大きな抵抗を与えることができる。このことも、また、乳幼児の体重による背もたれ部の落ち込みを抑制するのに寄与する。特に、背もたれ部が比較的立ち上がった状態において、この利点が有効に働く。

【0016】上述した利点をより完璧に発揮させるために、複数の背もたれ板および複数のヘッドガード板は、

実質的に一平面上に並ぶ状態となったとき、隣り合うものの相互で突き合わされる端面を有していることが好ましい。

【0017】また、この発明では、各背もたれ板と各ヘッドガード板とをヒンジ接続する側が正面側とされているので、ヘッドガード部を背もたれ部の上方端から立ち上がるように円滑に回動させることができる。

【0018】

【実施例】図1および図2は、この発明の一実施例による座席1を備える乳母車2を示す斜視図である。座席1は、座部3と、座部3の後方端から立ち上がりかつ傾斜角度変更可能に設けられた背もたれ部4と、背もたれ部4の上方端に回動可能に連結されたヘッドガード部5と、背もたれ部4の両側方端から立ち上がる1対のサイドガード部6とを備える。図1では、背もたれ部4が比較的立ち上がった状態にあり、また、ヘッドガード部5が背もたれ部4と実質的に一平面上に並ぶ状態にある。他方、図2では、背もたれ部4が最も倒れた状態にあり、また、ヘッドガード部は、背もたれ部4の上方端から立ち上がった状態にある。

【0019】このような座席1の表面は、たとえば布のような可撓性のカバーシート7によって与えられる。カバーシート7には、好ましくは、適当なクッション材が付加される。このようなカバーシート7を取除いた状態が、図3および図4に示されている。図3は、図1に対応し、図4は、図2に対応する。また、図5は、乳母車2を折りたたんだ状態を示して、この図面においても、カバーシート7が取除かれている。

【0020】座部3、背もたれ部4、ヘッドガード部5およびサイドガード部6は、それぞれ、剛性の比較的高い材料からなる板状の座芯材8、背もたれ芯材9、ヘッドガード芯材10およびサイドガード芯材11を備え、これら芯材8~11によって各々の形状が維持される。なお、図3ないし図5では、サイドガード芯材11の図示が省略されているが、サイドガード芯材11は、図13ないし図18において想像線で示されている。

【0021】図3と図5とを対比すればわかるように、この乳母車2が折りたたまれるとき、幅方向での折りたたみ動作が生じる。このような乳母車2の幅方向での折りたたみ動作を許容するため、座芯材8、背もたれ芯材9およびヘッドガード芯材10は、それぞれ、乳母車2の側面と平行に延びる2つの分割線によって分割された3つの座板12~14、3つの背もたれ板15~17、および3つのヘッドガード板18~20を備える。このような座芯材8、背もたれ芯材9およびヘッドガード芯材10の詳細は、図6ないし図11に示されている。

【0022】図6は、図3に示した状態に対応する状態を示し、図7は、図4に示した状態に対応する状態を示している。また、図8は、図6の線V I I I - V I I Iに沿う断面図であり、図9は、図6の線I X - I Xに沿

う断面図である。また、図10および図11は、乳母車2の折りたたみ動作に応じて与えられる座芯材8、背もたれ芯材9およびヘッドガード芯材10の形態を示すもので、図10は、折りたたみ途中の状態を示し、図11は、折りたたみ後の状態すなわち図5に示した状態に相当する状態を示す。

【0023】3つの座板12~14の隣り合うもの相互、3つの背もたれ板15~17の隣り合うもの相互、および3つのヘッドガード板18~20の隣り合うもの相互は、それぞれヒンジ接続される。また、背もたれ板15~17の各々とヘッドガード板18~20の各々ととは、それぞれ、ヒンジ接続される。これらのヒンジ接続には、たとえば、繰返し屈曲可能な可撓性シート材料からなるヒンジテープ21~29が用いられる。ヒンジテープ21~29は、接着、粘着または溶着等の方法により、所定の箇所に貼着される。なお、座板12~14、背もたれ板15~17およびヘッドガード板18~20が樹脂の成形により得られる場合には、これらヒンジテープ21~29を、成形のための金型内にインサートしておき、成形と同時にヒンジテープ21~29の貼着を達成するようにしてもよい。

【0024】ヒンジテープ21および22は、座板12~14の下面側に位置される。ヒンジテープ23および24は、背もたれ板15~17の背面側に位置される。ヒンジテープ25および26は、ヘッドガード板18~20の背面側に位置される。ヒンジテープ27~29は、背もたれ板15~17およびヘッドガード板18~20の正面側に位置される。

【0025】このようにして、座芯材8は、図10および図11に示すように、上方へ折り曲げられることができ、背もたれ芯材9およびヘッドガード芯材10は、前方へ折り曲げられることができる。また、図7に示すように、ヘッドガード芯材10は、背もたれ芯材9の上方端から立ち上がった状態となるように折り曲げられることができる。

【0026】座板12~14が実質的に一平面上に並ぶ状態となったとき、図8によく示されているように、隣り合う座板12および13は、互いに突き合わされる端面30および31をそれぞれ有し、また、隣り合う座板13および14は、互いに突き合わされる端面32および33をそれぞれ有する。このようにして、座芯材8は、図10および図11に示すように折り曲げ可能であるが、図8等に示すように実質的に一平面上に並ぶ状態とされたときには、端面30および31相互ならびに端面32および33相互の突き合わせにより、その平面状態が強固に維持される。したがって、座席1に乘坐される乳幼児の体重によって、座部3の中央部が下方へ落ち込むことを抑制でき、乳幼児に不自然な疲労を与えることを防止できる。

【0027】同様の配慮が、背もたれ芯材9にも払われ

ている。図9によく示されているように、背もたれ板15~17が実質的に一平面上に並ぶ状態となったとき、隣り合う背もたれ板15および16は、互いに突き合わされる端面34および35をそれぞれ有し、また、隣り合う背もたれ板16および17は、互いに突き合わされる端面36および37をそれぞれ有する。このようにして、背もたれ芯材9は、図10および図11に示すように折り曲げ可能であるが、一様な平面をなしたときには、その平面状態が強固に維持される。

【0028】同様の配慮が、ヘッドガード芯材10にも払われている。ヘッドガード芯材10が実質的に一平面上に並ぶ状態となったとき、図11に参照符号を記入したように、隣り合うヘッドガード板18および19は、互いに突き合わされる端面38および39をそれぞれ有し、また、隣り合うヘッドガード板19および20は、互いに突き合わされる端面40および41をそれぞれ有する。

【0029】上述したような端面相互の突き合わせによる平面状態の維持は、好ましくは、図6に示した背もたれ芯材9とヘッドガード芯材10とが実質的に一平面上に並ぶ状態を維持するため、背もたれ板15~17とヘッドガード板18~20との間にも採用される。

【0030】前述したように、背もたれ芯材9に関しては、図9によく示されているように、端面34~37の突き合わせにより、背もたれ板15~17が実質的に一平面上に並ぶ状態が維持される。しかしながら、図2、図4および図7に示すように、背もたれ部4すなわち背もたれ芯材9が最も倒された状態では、比較的立ち上がった状態に比べて、乳幼児のより多くの体重が背もたれ芯材9に加わることになる。そのため、背もたれ部4がその中央部において落ち込む傾向がある。この実施例では、このような背もたれ部4の落ち込みは、ヘッドガード芯材10の存在によりかなり抑制されることができ

る。

【0031】すなわち、図7によく示されているように、背もたれ芯材9が最も倒されたときには、ヘッドガード芯材10は、背もたれ芯材9の上方端から立ち上がる状態となっていて、ヘッドガード芯材10は、背もたれ芯材9の撓み強度を増すように作用している。その結果、背もたれ部4の落ち込みが抑制され、乳幼児に対して好ましい座り心地を与えることができるとともに、乳幼児の脊椎が不自然に変形されることを防止できる。

【0032】この乳母車2の折りたたみ動作に応じて、図10および図11に順次示すように、座芯材8および背もたれ芯材9がそれぞれ上方および前方へ折り曲げられるとともに、座芯材8の上面と背もたれ芯材9の前面とが互いに近づくように座芯材8と背もたれ芯材9とが回動される。このような折りたたみの状況からわかるように、座芯材8と背もたれ芯材9とは互いに干渉するように動作する。したがって、この干渉を緩和するための

7

措置が講じられなければ、図5に示すような乳母車2の折りたたみ状態を得ることができない。

【0033】この対策のため、この実施例では、背もたれ芯材9に備える中央の背もたれ板16の下方端が可撓性のベルト42によって保持される。ベルト42は、その各端部が1対のベルト取付部材43および44にそれぞれ取付けられながら、これらベルト取付部材43および44の間に渡される。より詳細には、ベルト42は、背もたれ板16の下方端に設けられた2つのスロット45および46に順次通されることにより、背もたれ板16を保持する状態とされる。他方、ベルト取付部材43および44には、それぞれ、ベルト42の各端部に形成されたループ状部分に挿入されるリング47および48が形成される。

【0034】ベルト取付部材43および44は、乳母車2の両側部に位置され、乳母車2の幅方向での折りたたみ動作に応じて互いに近づくものである。ベルト取付部材43および44は、それぞれ、乳母車2の後脚49および50に取付けられたアングル部材51および52に取付けられる。ベルト取付部材43および44は、それぞれ、図8に示すように、シャフト53および54を保持する。シャフト53および54は、それぞれ、座板12および14の各下面に設けられた軸受部55および56内に受け入れられ、軸受部55および56内において各々の軸線周りに回転可能である。シャフト53および54の各前方端は、それぞれ、乳母車2の前脚57および58に取付けられたブラケット59および60によって保持される。

【0035】乳母車2の開いた状態では、ベルト42は、比較的緊張した状態を保っている。したがって、背もたれ芯材9の下方端は、安定した位置に保たれる。

【0036】乳母車2が折りたたまれるとき、1対のベルト取付部材43および44は互いに近づく。これによって、座芯材8および背もたれ芯材9はそれぞれ上方および前方へ折り曲げられるとともに、ベルト42が緩められる。したがって、座芯材8の上面と背もたれ芯材9の前面とが互いに近づくように座芯材8と背もたれ芯材9とが回動され、座芯材8が背もたれ芯材9にカバースート7を介して衝突したとき、背もたれ芯材9は、その衝突に応じて、座芯材8との干渉を避けるように変位する。その結果、座芯材8と背もたれ芯材9との干渉によって、乳母車2の折りたたみ動作の進行が妨げられることが防止される。

【0037】なお、上述したような座芯材8と背もたれ芯材9との相対的な動きを許容するため、カバースート7には、座部3と背もたれ部4との境界部分において弛みが持たされている。

【0038】背もたれ芯材9の前方への折り曲げ動作を生じさせる機構については後述する。

【0039】次に、図6および図7にそれぞれ示すよう

8

な背もたれ芯材9およびヘッドガード芯材10の動作を与えるための機構について説明する。

【0040】図12は、乳母車2の側面図である。図12では、乳母車2が部分的に省略または破断されて示されている。なお、図12ないし図18に示される各要素は、乳母車2の両側部において対称的に設けられるものであるが、これらの図面を参照しながらの説明は、一方側に設けられる要素についてのみに行う。

【0041】背もたれ部4の変更された傾斜角度を固定するための傾斜角度固定手段として、背もたれ保持部材61が設けられる。背もたれ保持部材61は、ピン62を回動中心として回動可能に調整ブラケット63に取付けられる。調整ブラケット63は、乳母車2の押棒64上に取付けられる。ピン62は、前述した背もたれ部4の回動中心とは異なる位置にある。

【0042】調整ブラケット63は、図16によく示されているように、複数の係合突起65および66ならびに係合壁67を形成している。

【0043】他方、背もたれ保持部材61上には、背もたれ保持部材61の長手方向に移動可能に係合スリーブ68が設けられる。係合スリーブ68の移動範囲は、図17によく示されているように、係合スリーブ68に保持されたピン69とこれを受入れるように背もたれ保持部材61に設けられた長手のガイド穴70とによって規定される。係合スリーブ68の一方端には、前述した係合突起65および66に選択的に係合する係合部71が設けられる。係合部71が係合突起65および66に係合する方向へ移動するように係合スリーブ68を付勢するため、ばね72が、係合スリーブ68の一部と背もたれ保持部材61に固定された当接部材73との間に配置される。係合スリーブ68の他方端には、ばね72の弾性に抗して、係合部71が係合突起65および66から離れる方向へ係合スリーブ68を移動させるように操作するための操作部74が設けられる。

【0044】このようにして、操作部74に指を掛けるなどして、ばね72の弾性に抗して係合スリーブ68を移動させ、係合部71を係合突起65および66から離れた状態としたとき、背もたれ保持部材61は、ピン62を中心として回動可能な状態となる。そして、図16に示すように、係合部71を係合突起65に係合させたとき、背もたれ保持部材61は、図13に示すように、最も立ち上がった状態で固定される。また、係合部71が係合突起66に係合したときには、図14に示すように、背もたれ保持部材61は中間的な傾斜状態で固定される。さらに、係合スリーブ68が係合壁67に当接したときには、図15に示すように、背もたれ保持部材61は最も倒れた状態で固定される。

【0045】前述したサイドガード芯材11の下方端部が、図16および図17に想像線で示されている。サイドガード芯材11の下方端部は、ピン62によって保持

される。

【0046】背もたれ保持部材61の上方端が図18に示されている。背もたれ保持部材61は、背もたれ部4の延びる方向に延びる長穴75と長穴75内に移動可能に受け入れられるピン76との組合わせからなる連結機構を介して背もたれ部4に連結される。より具体的には、背もたれ保持部材61の上方端にピン76が設けられる。他方、長穴75は、背もたれ部4に含まれる背もたれ芯材9の一部である背もたれ板17の側部に取付けられた連結ブラケット77に設けられる。連結ブラケット77は、ピン78を中心として回動可能なように背もたれ板17に取付けられる。このピン78を中心とする回動は、前述した第10図および第11図に示するような背もたれ芯材9の折り曲げを可能とするものである。

【0047】なお、背もたれ保持部材61と背もたれ部4とを連結するための長穴75とピン76との組合わせからなる連結機構において、図示の実施例とは逆に、長穴が背もたれ保持部材61側に設けられ、ピンが背もたれ部4側に設けられていてもよい。

【0048】図18において想像線で示すように、サイドガード芯材11の上方端は、背もたれ保持部材61と連結ブラケット77との間に位置され、ピン76によって保持される。したがって、サイドガード芯材11は、背もたれ保持部材61と一体的に動作する。

【0049】図12ないし図16に示すように、調整ブラケット63において、ピン62より後方に位置されるピン79を回動中心として回動するように、制御部材80が設けられる。図18には、制御部材80の上方端が示されている。制御部材80は、ピン81を介して、ヘッドガード部5に回動可能に連結される。より具体的には、ヘッドガード部5に含まれるヘッドガード芯材10の一部であるヘッドガード板20の側部に取付けられた連結ブラケット82に対して、ピン81を介し制御部材80が回動可能に連結される。連結ブラケット82は、ピン83を介してヘッドガード板20に連結される。したがって、連結ブラケット82は、ピン83を中心として、ヘッドガード板20に対して回動可能である。この回動は、図10および図11に示すようなヘッドガード芯材10の前方への折り曲げを許容する。

【0050】上述したヘッドガード部5と制御部材80との連結点、すなわちピン81は、ヘッドガード部5と背もたれ部4との連結点、すなわちヒンジテープ27～29によって与えられるヒンジ軸より、背もたれ部4の背面側に位置される。

【0051】背もたれ部4、より特定的には背もたれ芯材9は、前述したように、乳母車2の本体部分に対してベルト42を介して保持され、また、背もたれ保持部材61に対して、長穴75とピン76との組合わせからなる連結機構を介して保持されているので、その延びる方向に移動可能である。

【0052】図13に示すように、背もたれ芯材9が最も立ち上がった状態では、ヘッドガード芯材10と背もたれ芯材9とは実質的に一平面上に並んだ状態となっている。そして、ピン76が長穴75の一方端すなわち上方端に位置している。

【0053】次に、図14に示すように、背もたれ芯材9が中間的な傾斜状態をとったときには、制御部材80が、ヘッドガード芯材10を介して背もたれ芯材9を上方へ引き上げる。すなわち、背もたれ芯材9は、その延びる方向において上方端側へ移動される。このとき、ピン76は、長穴75の他方端すなわち下方端側へ移動するだけであり、背もたれ保持部材61の動作は背もたれ芯材9には何ら伝達されない。したがって、ヘッドガード芯材10が背もたれ芯材9と実質的に一平面上に並ぶ状態は維持される。

【0054】次に、図15に示すように、背もたれ芯材9が最も倒された状態では、既にピン76が長穴75の下方端に位置しているので、背もたれ保持部材61の動作が背もたれ芯材9に伝達され、それによって背もたれ芯材9はさらにその下方端側へ移動される。このとき、ピン81はヒンジテープ27～29が与えるヒンジ軸より背もたれ部4の背面側に位置されているとともに、ピン81の位置が制御部材80によって維持されているので、上述した背もたれ芯材9の移動に応じて、ヘッドガード芯材10が回動され、背もたれ芯材9の上方端から立ち上がった状態にもたらされる。このようにして、図2に示すように、ヘッドガード部5が背もたれ部4の上方端から立ち上がった状態が得られる。

【0055】逆に、図15に示した状態から図13に示した状態に戻したときには、ヘッドガード芯材10は、背もたれ芯材9と実質的に一平面上に並ぶ状態にもたらされる。なお、図15に示した状態から図14に示した状態に戻したときには、背もたれ芯材9が中間的な傾斜状態に戻されるが、ヘッドガード芯材10が背もたれ芯材9の上方端から立ち上がった状態が維持されてしまう。したがって、図14に示したように、ヘッドガード芯材10が背もたれ芯材9と実質的に一平面上に並ぶ状態にするには、ヘッドガード芯材10すなわちヘッドガード部5に、直接、力を加えて、これを強制的に回動させることが行なわれる。なお、一旦、図13に示す状態に戻してから、再び図14に示した状態に移行させれば、上述したようなヘッドガード部5に対する操作は不要である。

【0056】以上説明した実施例では、背もたれ芯材9が3つの背もたれ板15～19を備え、ヘッドガード芯材10が3つのヘッドガード板18～20を備えていたが、背もたれ芯材およびヘッドガード芯材のそれぞれの分割される数は任意である。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の一実施例による座席1を備えた乳母

11

車2の全体を示す斜視図である。

【図2】図1に示した乳母車2の全体を示す斜視図であり、背もたれ部4を最も倒した状態を示す。

【図3】図1に相当する図であって、座席1のカバーシート7を除去した状態を示す。

【図4】図2に相当する図であって、座席1のカバーシート7を除去した状態を示す。

【図5】図1に示した乳母車2を折りたたんだ状態を示す斜視図であって、座席1のカバーシート7を除去した状態を示す。

【図6】図3に示した座席1に関連する構成を示す斜視図である。

【図7】図4に示した座席1に関連する構成を示す斜視図である。

【図8】図6の線V I I I - V I I I に沿う断面図である。

【図9】図6の線I X - I X に沿う断面図である。

【図10】図6に示した構成を示す斜視図であり、乳母車2の折りたたみ動作の途中の状態を示す。

【図11】図5に示した乳母車2の座席1に関連する構成を示す斜視図である。

【図12】図4に示した乳母車2を部分的に破断または省略して示す側面図である。

【図13】背もたれ芯材9の傾斜角度を変更するための

12

機構を示す側面図であり、背もたれ芯材9が最も立ち上がった状態を示す。

【図14】図13に相当する図であって、背もたれ芯材9の中間的な傾斜状態を示す。

【図15】図13に相当する図であって、背もたれ芯材9が最も倒れた状態を示す。

【図16】図13の主要部を拡大して示す側面図である。

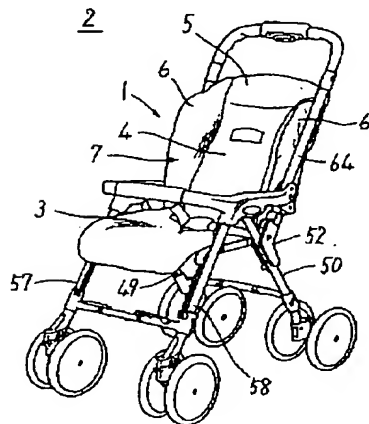
【図17】図16の線X V I I - X V I I に沿う断面図である。

【図18】図13の状態にある背もたれ芯材9の上方端付近を示す斜視図である。

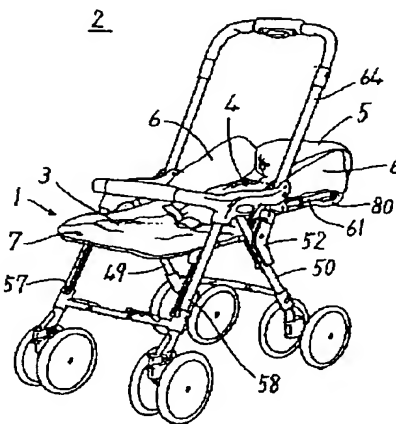
【符号の説明】

- 1 座席
- 2 乳母車
- 3 座部
- 4 背もたれ部
- 5 ヘッドガード部
- 9 背もたれ芯材
- 10 ヘッドガード芯材
- 15~17 背もたれ板
- 18~20 ヘッドガード板
- 21~29 ヒンジテープ
- 30~41 端面

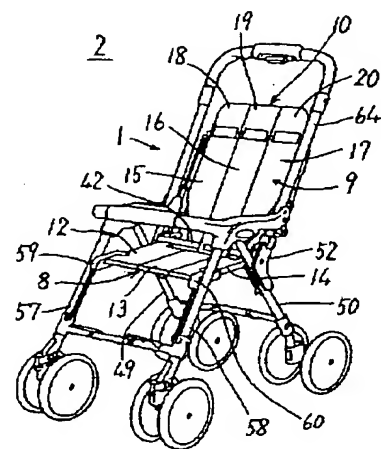
【図1】



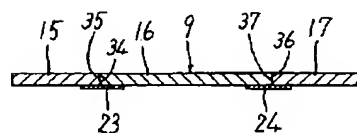
【図2】



【図3】

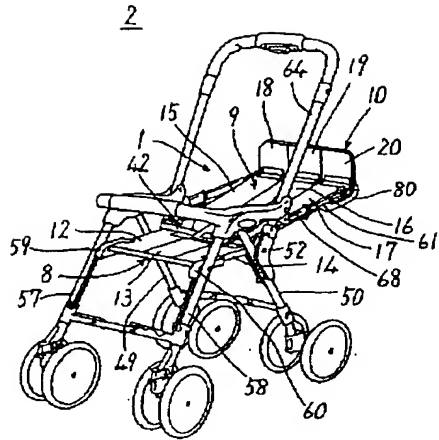


【図9】

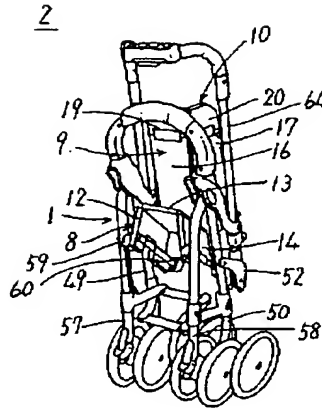




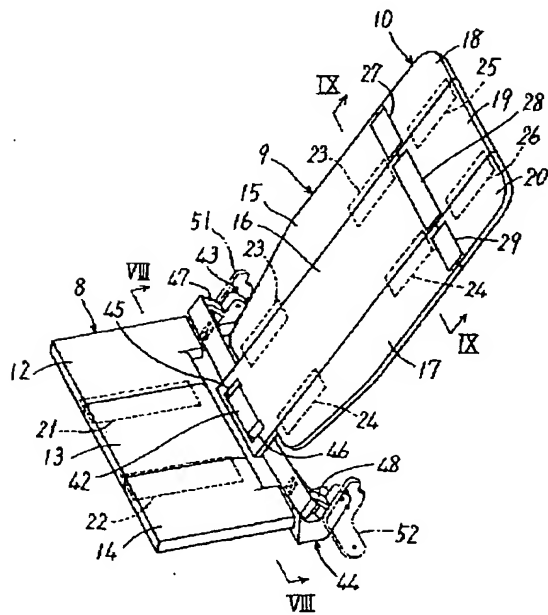
【図4】



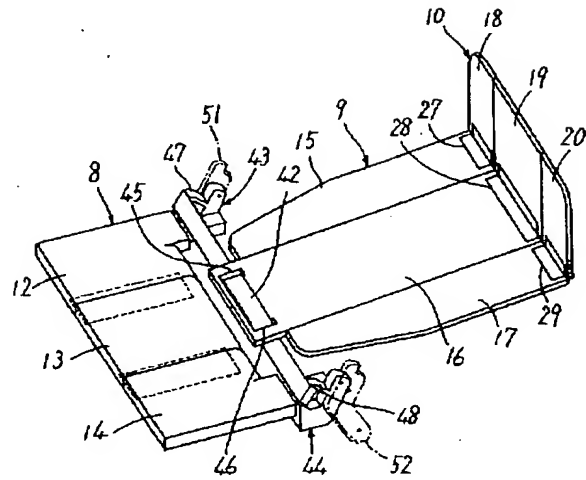
【図5】



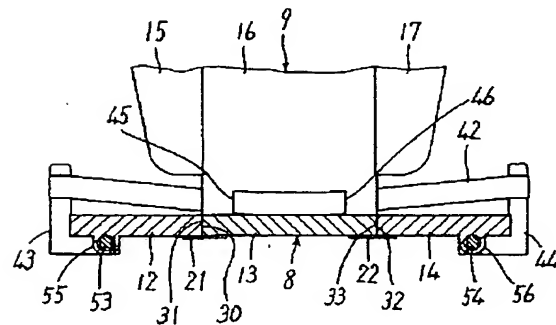
【図6】



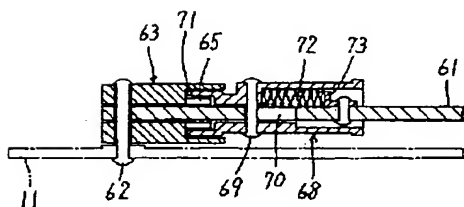
【図7】



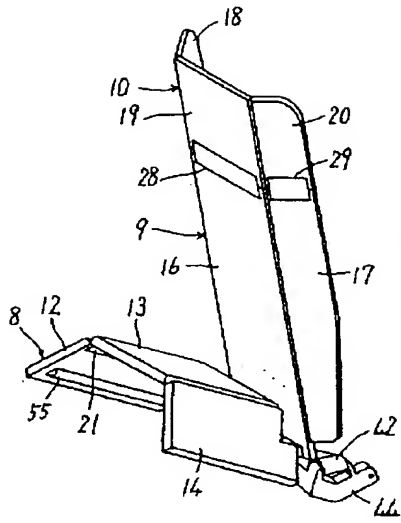
【図8】



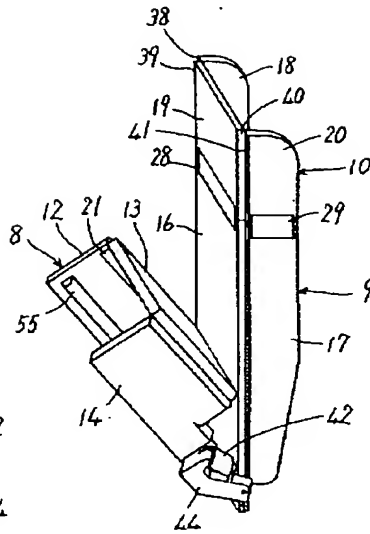
【図17】



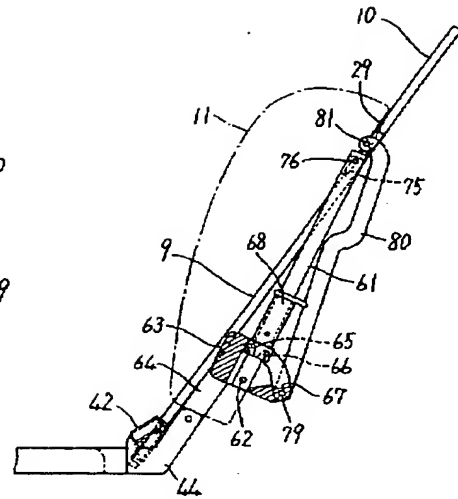
【図10】



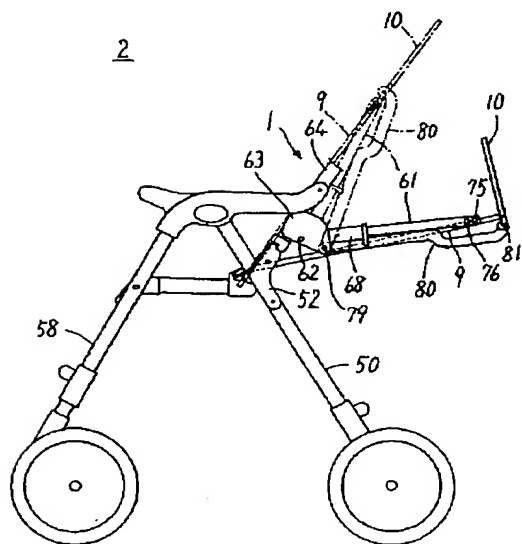
【図11】



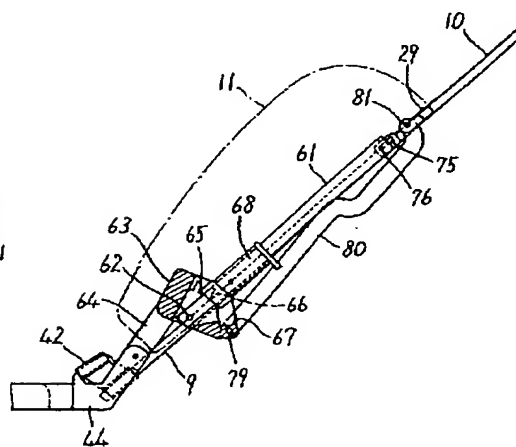
【図13】



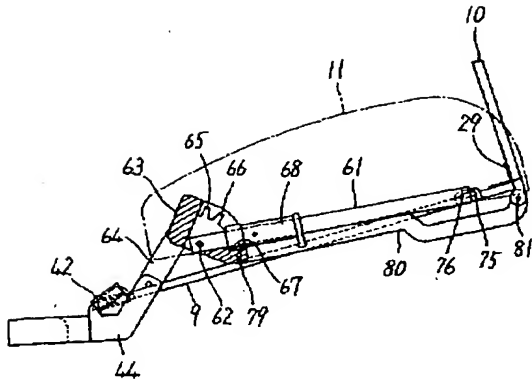
【図12】



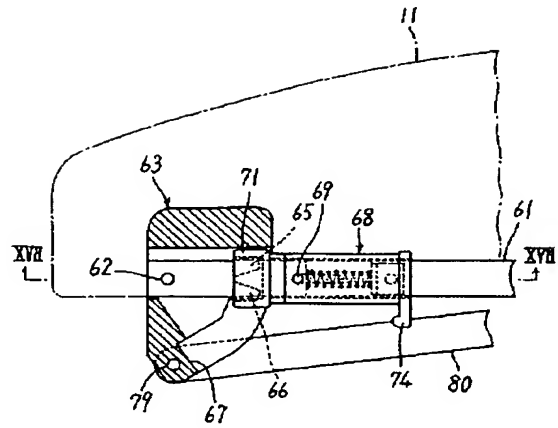
【図14】



【図15】



【図16】



【図18】

